

# 令和3年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名
	—	

## 問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

### 〔注意事項〕

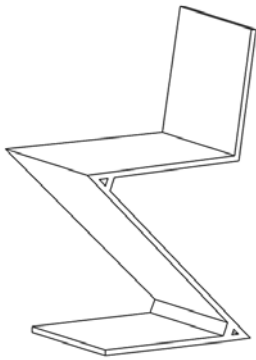
1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。**
5. 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)～(3)のとおりです。
  - (1)**適用すべき法令については、令和3年1月1日現在において施行されているもの**とします。
  - (2)建築基準法令に定める「構造方法等の認定」、「耐火性能検証法」、「防火区画検証法」、「区画避難安全検証法」、「階避難安全検証法」及び「全館避難安全検証法」の適用については、問題の文章中に**特に記述がない場合にあっては考慮しないもの**とします。
  - (3)地方公共団体の条例については、**考慮しないもの**とします。
6. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます。**  
(中途退出者については、持ち帰りを禁止します。)

〔No. 1〕 近代の芸術運動等とそれに関係する人物名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

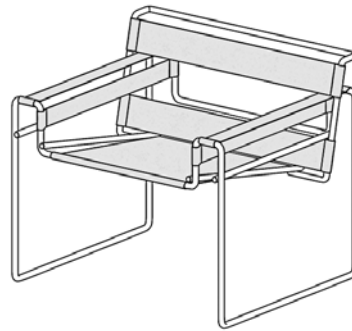
1. 構成主義 —— ウラジーミル・タトリン (Vladimir Tatlin)
2. シカゴ派 —— エーロ・サーリネン (Eero Saarinen)
3. 田園都市 —— エベネザー・ハワード (Ebenezer Howard)
4. C I A M —— ヴァルター・グロピウス (Walter Gropius)

〔No. 2〕 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. ヘリット・トーマス・リートフェルト  
(Gerrit Thomas Rietveld)



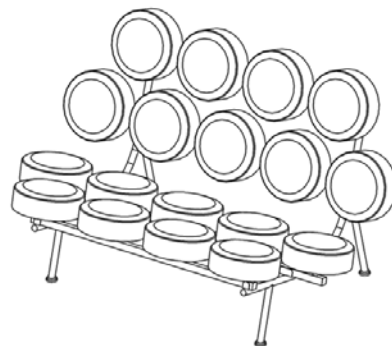
2. ル・コルビュジエ  
(Le Corbusier)



3. チャールズ・イームズ  
(Charles Eames)



4. ジョージ・ネルソン  
(George Nelson)



〔N o. 3〕 建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. P O E (Post-Occupancy Evaluation)とは、一般に、入居後評価とも言われ、使用状態にある建築物について、その利用者にとっての評価を行うものである。
2. L C A (Life-Cycle Assesment)とは、製品等の原材料の採取から製造、使用、解体・廃棄に至るまでの環境影響を評価するものであり、I S O 14040規格等に示されている。
3. P A L \*(Perimeter Annual Load \*)とは、設備機器等の一次エネルギー消費量によって評価する基準であり、住宅の建築を行う際には特定行政庁へ計画の届出義務がある。
4. S I (Skeleton-Infill)とは、建築物の構造躯体と内装・設備とを分離した工法であり、ライフスタイルの変化などに伴う設備や間取り等の変更に対応しやすい。

〔N o. 4〕 建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. コレクティブハウスとは、建築前から居住者を募り、住戸の計画・設計から入居までのプロセスを共有する集合住宅である。
2. ケアハウスとは、身体機能の低下や自立して生活を営むには不安のある高齢者が入居し、生活相談、入浴、食事等を提供する施設である。
3. 特別養護老人ホームとは、身体上又は精神上著しい障害があるために常時の介護を必要とする高齢者が入居し、日常生活上必要なサービスを提供する施設である。
4. シェアハウスとは、一般に、個室には水回りがなく、リビング、台所、浴室、トイレ、洗面所等を共用する形態の住宅である。

〔N o. 5〕 次の「人間工学に関する用語」と「インテリア計画に関する事項」との組合せのうち、**最も関係の少ないもの**はどれか。

1. サービス水準 ————— コンコースの通路の幅
2. パーソナルスペース ————— 浴槽の寸法
3. ポピュレーションステレオタイプ ——— 扉の開閉動作
4. 流動係数 ————— 出入口の幅

〔No. 6〕 バリアフリーに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 段の高さが15 cmの屋内の通路において、手すりを設置し、 $\frac{1}{8}$ の勾配の傾斜路を設けた。
2. 上吊り形式の手動式の引き戸を、室の出入口に採用した。
3. 高齢者に配慮し、開き戸の取っ手は握り玉タイプのものを採用した。
4. 車椅子使用者用便房の洗面器の吐水口を、洗面器の手前縁から30 cmの位置に設けた。

〔No. 7〕 環境・省エネルギーに関する用語とその説明との組合せとして、最も関係の少ないものは、次のうちどれか。

1. LEED ————— 建築物や敷地利用などに関する環境性能評価システム
2. CASBEE ———— 建築物省エネルギー性能表示制度
3. LCCO<sub>2</sub> ————— 建築物のライフサイクルを通しての二酸化炭素の総排出量
4. ZEH ————— 室内環境の質を維持しつつ、年間の一次エネルギー消費量の収支を0(ゼロ)とすることを目指した住宅

〔No. 8〕 熱環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 熱容量の大きい建築物においては、室温の変動が小さい。
2. 熱移動には、伝導、対流及び放射の三形態がある。
3. 壁の内部に中空層を設けると、壁の熱貫流率が大きくなる。
4. 壁面とその壁面に接する流体との間で熱が移動する現象は、対流熱伝達である。

〔No. 9〕 音環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 人の可聴周波数の上限は、一般に、年齢が上がるにつれて低下するので、高齢者は周波数の高い音が聞き取りにくくなる。
2. グラスウール等の多孔質材料の吸音率は、一般に、低音域の音より高音域の音のほうが大きい。
3. カクテルパーティー効果は、周囲が騒がしいことにより、聞きたい音が聞き取りにくくなる現象をいう。
4. 室の残響時間は、平均吸音率が等しい場合、室容積に比例し、室内全表面積に反比例する。

〔N o. 10〕 室内環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 室内におけるシルエット現象の防止には、ブラインド等で窓面の輝度を下げることが有効である。
2. 窓に複層ガラスを用いると、共鳴周波数付近においては、同一面密度の単板ガラスより、遮音性能が劣ることがある。
3. 日照・日射の調整のために、窓面に設けるルーバーは、一般に、南向き窓面には水平のものが、西向き窓面には垂直のものが有効である。
4. 東京(北緯 35 度の地点)の夏至における終日の直達日射量は、東向きの窓より南向きの窓のほうが大きい。

〔N o. 11〕 空気調和設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 汚染質が発生している室における必要換気量は、その室の容積の大小は影響しない。
2. A P F は、パッケージエアコン等の運転効率を表す指標であり、建築物用途や使用期間を設定し、冷房期間と暖房期間を総合した実際の使用状況に近い運転効率を示している。
3. 床吹出し空調方式は、通常の天井吹出し方式よりも冷房時の給気温度を上げる必要がある。
4. 空気熱源マルチパッケージ型空調機方式では、屋外機から屋内機に冷水を供給して冷房を行う。

〔N o. 12〕 給排水衛生設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 各個通気方式は、一般に、伸頂通気方式に比べて、通気の実効性が高い。
2. クロスコネクションは、排水トラップの封水損失の要因となる。
3. 雨水立て管は、排水立て管、通気立て管のいずれとも兼用してはならない。
4. 排水の流れに支障をきたすおそれがあるので、トラップを二重に設けてはならない。

〔N o. 13〕 開口部に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 網入板ガラスは、厚板ガラスに金網を埋め込んだガラス板のことで、断熱性に優れている。
2. 内倒し窓は、突出し窓に比べて、水密性が低い。
3. 合成樹脂製のサッシは、アルミサッシに比べて断熱性が高い。
4. 合わせガラスは、2 枚の板ガラスの間に中間膜を挟んで加熱圧着したもので、ガラスが破損しても破片の大部分は、飛散しない性質がある。

〔N o. 14〕 住宅の階段に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 階段の有効幅は、手すりを含めない寸法で、750 mmとした。
2. 階段の蹴上げと踏面は、蹴上げを 200 mm、踏面を 240 mmとした。
3. 回り階段の踏面寸法は、踏面の狭いほうの端から 200 mmの位置において所要寸法を確保した。
4. 階段の天井高は、階段の勾配と直角に 2,100 mmの高さを確保した。

〔N o. 15〕 和室の造作に関する次の組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. 船底天井 —— 茶室
2. 落とし掛け —— 床の間
3. 海老束 —— 違い棚
4. 畳寄せ —— 竿縁

〔N o. 16〕 建具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. フラッシュ戸は、枠や心材の両面に、合板や各種ボードを張って表面を平らに仕上げた戸である。
2. 襖<sup>ふすま</sup>は、木製の骨組みの両面に、何層も紙又は布を張り、縁と引手を付けた建具である。
3. 明り障子は、組子の片面に和紙などを張って、明かりを採り入れられるようにした障子である。
4. 押縁は、窓や出入口の枠と壁仕上げ材料の納まりのために、枠回りに取り付けられる化粧材である。

〔N o. 17〕 塗壁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 消石灰等を原料とする漆喰<sup>しっくい</sup>塗壁は、耐久性に優れている。
2. 木綿・合成繊維等を原料とする繊維壁は、耐水性に優れている。
3. 色土等を原料とする土壁は、調湿性に優れている。
4. 焼せっこう等を原料とするせっこうプラスター塗壁は、耐熱性に優れている。

〔No. 18〕 カーテン・ブラインドに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. カーテンレールをシングルで取り付けの場合、カーテンボックスの奥行き寸法は、100 mm以上とする。
2. ベネシャンブラインドは、太陽高度の変化に応じて直射日光を防ぎながら明るさを調整することができる。
3. ベネシャンブラインドは、障子に比べて断熱性に劣る。
4. 窓の屋外側に設置する外付けブラインドは、一般に、室内側に設置するブラインドに比べて、日射による冷房負荷の軽減効果が低い。

〔No. 19〕 畳に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. いぐさ・藁<sup>わら</sup>等を主原料とする畳は、弾力性・断熱性・保温性に優れている。
2. 畳割りとは、畳の大きさを基準として柱間の寸法を決める方法である。
3. 京間(本間)の畳寸法は、長さ6尺3寸(191 cm)、幅3尺1寸5分(95.5 cm)である。
4. 畳床<sup>たたみどこ</sup>は、畳の表層に張る敷物で、乾燥したいぐさ等を横糸にし、麻糸や木綿糸などをたて糸にして織り上げたものである。

〔No. 20〕 椅子の機能・構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. スタッキングチェアは、折りたたみ椅子であり、脚がX型に交差し、座面がたたまれたり、立ち上がったたりして折りたたまれるものが多い。
2. ロッキングチェアは、前後に揺れる椅子で、床面に接する部分にソリのような形のロッカーを付けて椅子全体を揺らすものがある。
3. カウチは、休息に用いられる寝椅子で、片方又は両横に背もたれとクッションがついている。
4. ギャングングチェアは、カギで横に連結できる椅子で、椅子を整列させたい場所で使用する際に便利である。

〔No. 21〕 照明に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. バランス照明は、折上げ天井などの隅に光源を隠して、天井面を明るくする方式である。
2. ルーバ天井照明は、天井の全面又は一部にルーバを張り、その上部に光源を配置した照明方式である。
3. コーニス照明は、幕板状の天井回り縁の内側に光源を隠して、壁面やカーテンなどを明るくする方式である。
4. 光天井照明は、天井の全面又は一部に拡散透過性のある素材を用い、その上部に光源を配置し、天井面を光らせるようにする照明方式である。

〔No. 22〕 設備機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 先止め式ガス瞬間湯沸器は、機器の出口側(給湯先)の湯栓の操作で給湯する方式の機器である。
2. 潜熱回収型ガス給湯機は、大気から熱をとり、高温の湯を貯湯して給湯するものである。
3. 家庭用燃料電池は、都市ガスやLPガスから取り出した水素と空気中の酸素とを反応させて発電し、その排熱を給湯などに利用するものである。
4. 全熱交換器は、空調の「排気中の全熱」と「取り入れ外気中の全熱」とを交換させる装置である。

〔No. 23〕 煙制御に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 火災室となる室に押し出し排煙を行うと、火災室から避難経路に煙が拡散されるおそれがあるので、採用すべきではない。
2. 密閉性の高い室や小さな室に機械排煙を採用する場合、扉の開閉障害が発生するおそれがあるので、給気経路を設けるなどの措置が必要である。
3. 自然排煙と機械排煙の区画が接している場合の境界部は、それぞれの排煙量を補完するため防煙垂れ壁による区画が有効である。
4. 防火区画を貫通する機械排煙方式においては、室の火災が進展し煙層が高温になると、排煙ダクトの防火ダンパーが閉鎖するため、排煙が期待できない。



〔N o. 24〕 建築物の火災安全計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 社会福祉施設などの入居者の避難に時間を要する施設では、扉の閉鎖により熱・煙を火災室に閉じ込めるなど、火災を局所化することが重要である。
2. 避難階段においては、避難時間の短縮を目的として、階段の有効幅より階段入口部分の有効幅を大きくすることが重要である。
3. 物販店舗において、避難経路が後方部門を経由する場合、ストックスペースについては区画や手すりなどで通路を確保することが重要である。
4. フールプルーフの考え方にに基づき、避難階の階段室の扉は階段室外側に開くようにすることが重要である。

〔N o. 25〕 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 板ガラスは、振動等による倒れを防止するため、屋内に平置きにして保管した。
2. 接着剤等の化学製品を使用したので、作業期間中は安全データシート(SDS)を常備し、記載内容の周知徹底を図り、作業者の健康・安全の確保及び環境保全に努めた。
3. 内装の解体工事において、発生したポリ塩化ビフェニル(PCB)を使用した蛍光灯安定器を、特別管理産業廃棄物として処理した。
4. 可燃性の塗装材料の置場は、不燃材料で造った独立した平家建てとし、屋根は軽量な不燃材料で葺き、天井は設けなかった。

〔N o. 26〕 軽量鉄骨下地の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、天井は特定天井及びシステム天井に該当しないものとする。

1. 軽量鉄骨天井下地において、吊りボルトの間隔は900 mm程度とし、天井の周辺部については端から150 mm以内に配置した。
2. 軽量鉄骨天井下地の野縁をクリップを用いて野縁受に取り付けるに当たり、クリップのつめの向きを、交互にして留め付けた。
3. 軽量鉄骨壁下地のスタッドの高さが4,500 mmの間仕切壁下地に、65型のスタッドを用いた。
4. 軽量鉄骨壁下地において、せっこうボード1枚張りとする場合のスタッドの間隔は、300 mm程度とした。





〔N o. 27〕 石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 内壁空積工法において、特記がなく、平面的に長い大壁だったので、伸縮調整目地を6 mごとに設けた。
2. 屋内の床に、湿式工法で大理石を取り付ける際に、600 mm角で厚さ15 mmのものを用いた。
3. 内壁空積工法において、取付け代として石材の裏面とコンクリート躯体との間隔を、40 mmとした。
4. 内壁空積工法において、最下段の石材は、耐衝撃性の向上を図るために湿式工法を採用したので、濡れ色、白華対策として浸透性吸水防止材の塗布を行った。

〔N o. 28〕 建具・ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建具の保管において、障子・襖類は種類別に立てかけとし、フラッシュ戸は平積みとした。
2. アルミサッシと鋼材とが接する部分には、電氣的絶縁のために、塗膜処理を行った。
3. 外部に面したアルミサッシに複層ガラスをはめ込む場合、下端のガラス溝に直径6 mmの水抜き孔を2箇所設けた。
4. 高層階のバルコニーにおいて、手すりの面材に使用するガラスを強化ガラスとした。

〔N o. 29〕 J I Sにおける電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1.  —— 換気扇
2.  —— 誘導灯
3.  —— 電話機形インターホン親機
4.  —— 電話用アウトレット

〔N o. 30〕 各種工事とそれを用いる工法・施工機器・工具との組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. カーペット工事 —— グリッパー工法
2. 塗装工事 —— スプレーガン
3. ガラス工事 —— パワーストレッチャー
4. 石工事 —— びしゃん

〔N o. 31〕 材料とその標準的な表面処理・仕上げとの組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. ステンレス板 —— ダル
2. 砂岩 —— ジェットバーナー
3. アルミニウム合金板 —— 陽極酸化塗装複合被膜
4. 花こう岩 —— 割肌

〔N o. 32〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(七会)連合協定「工事請負契約約款」(令和2年(2020)4月改正)に照らして、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 受注者は、契約を締結したのち速やかに請負代金内訳書及び工程表を発注者に、それぞれの写しを監理者に提出し、請負代金内訳書については監理者の確認を受ける。
2. 発注者又は受注者は、工事について発注者、受注者間で通知、協議を行う場合には、契約に別段の定めのあるときを除き、原則として、通知は監理者を通じて、協議は監理者を参加させて行う。
3. 主任技術者(又は監理技術者もしくは監理技術者補佐)、専門技術者及び現場代理人は、これを兼ねることができる。
4. 不用となった支給材料(残材を含む。いずれも有償支給材料を除く。)又は使用済みの貸与品の返還場所は、設計図書等に別段の定めのないときは発注者の所在地とする。

〔N o. 33〕 シーリング工事に用いる材料とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. プライマー ————— シーリング材と被着体とを強固に接着して、シーリング材の機能を長期間維持するための塗布材
2. マスキングテープ —— プライマー塗布及びシーリング材充填の際の汚染防止と、目地縁の線を通りよく仕上げるために用いる粘着テープ
3. ボンドブレイカー —— シーリング材の被着面に付着した油分や接着剤を除去するために用いる液状の揮発剤
4. バックアップ材 ————— シーリング材の三面接着の回避、充填深さの調整あるいは目地底の形成を目的とした材料

〔N o. 34〕 ボード類の種類とその特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 強化せっこうボードは、心材のせっこうに無機質繊維等を混入したもので、防火性が高い。
2. けい酸カルシウム板は、温度や湿度による伸縮、反り等の変形が大きい。
3. パーティクルボードは、木材などの小片を主な原料として、接着剤を用いて成形熱圧した板である。
4. フローリングボードは、1枚のひき板を基材とした単層フローリングであり、直張り又は根太張り用として用いられる。

〔N o. 35〕 次の行為のうち、建築基準法上、全国どの場所においても、確認済証の交付を受ける必要があるものはどれか。

1. 木造2階建て、延べ面積500 m<sup>2</sup>、高さ8 mの一戸建て住宅の大規模の修繕
2. 木造2階建て、延べ面積150 m<sup>2</sup>、高さ8 mの一戸建て住宅から老人福祉施設への用途の変更
3. 鉄骨造2階建て、延べ面積100 m<sup>2</sup>の事務所の改築
4. 鉄骨造3階建て、延べ面積300 m<sup>2</sup>の倉庫における床面積10 m<sup>2</sup>の増築

[No. 36] 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当しないものとし、火災が発生した場合に避難上支障のある高さまで煙又はガスの降下が生じない建築物の部分はないものとする。

1. 主要構造部を準耐火構造とした2階建て、延べ面積 600 m<sup>2</sup>の寄宿舍(1時間準耐火基準に適合するもの)で、2階の部分の床面積の合計が 300 m<sup>2</sup>の居室は、内装の制限を受けない。
2. 自動車車庫の壁の室内に面する部分の仕上げのうち、床面から高さが 1.2 m以下の部分には、難燃材料を使用することができる。
3. 木造3階建て、延べ面積 100 m<sup>2</sup>の一戸建て住宅(主要構造部は耐火構造ではないものとする。)において、3階に火を使用する設備を設けた台所の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げには、難燃材料を使用することができる。
4. 2階建て、延べ面積 800 m<sup>2</sup>の準耐火建築物である共同住宅において、床面積の合計 200 m<sup>2</sup>以内ごとに準耐火構造の壁等で区画された住戸の部分の居室は、内装の制限を受けない。

[No. 37] 耐火建築物等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、地階及び防火壁はないものとし、防火地域及び準防火地域以外の地域、地区等は考慮しないものとする。

1. 準防火地域内においては、2階建て、延べ面積 1,500 m<sup>2</sup>の事務所は、耐火建築物としなければならない。
2. 準防火地域内においては、2階建て、延べ面積 300 m<sup>2</sup>の木造建築物等は、その外壁及び軒裏で延焼のおそれのある部分を防火構造等としなければならない。
3. 防火地域内においては、2階建て、延べ面積 200 m<sup>2</sup>の共同住宅は、耐火建築物等としなければならない。
4. 防火地域及び準防火地域にわたり、3階建て、延べ面積 100 m<sup>2</sup>の一戸建て住宅を新築する場合、耐火建築物等としなければならない。

〔N o. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 中学校における生徒用の廊下で、片側にのみ居室があるものの幅は1.8 m以上としなければならない。
2. 屋内に設ける避難階段の階段室の天井(天井のない場合は屋根)及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料でし、かつ、その下地を不燃材料で造らなければならない。
3. 避難階が1階である2階建ての旅館(主要構造部が不燃材料で造られているもの)で、2階における宿泊室の床面積の合計が200 m<sup>2</sup>であるものには、その階から避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を設けなければならない。
4. 5階建ての百貨店で、5階部分に1,000 m<sup>2</sup>の売場を有するものには、避難の用に供することができる屋上広場を設けなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。

1. 居室の天井の高さの算定は、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分があったので、その平均の高さとした。
2. 階段に代わる高さ1.2 mの傾斜路に幅10 cmの手すりを設けたが、当該傾斜路の幅の算定に当たっては、手すりはないものとみなした。
3. 開口部で採光に有効な部分の面積を算定する場合に用いる採光補正係数は、その計算した数値が3.0を超えたので、3.0とした。
4. 延べ面積200 m<sup>2</sup>の集会場の居室に設ける換気設備は、自然換気設備とした。

〔N o. 40〕 建築設備に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 体育館における建築基準法施行令第116条の2第1項第二号に該当する窓その他の開口部を有しない居室には、排煙設備を設けなくてもよい。
2. 換気設備を設けない住宅の居室には、換気のための窓その他の開口部を設け、その換気に有効な部分の面積は、その居室の床面積に対して、 $\frac{1}{50}$ 以上としなければならない。
3. 階数が3以上で延べ面積が500 m<sup>2</sup>を超える建築物において、避難階又は避難階の直上階若しくは直下階の居室で避難上支障がないものは、非常用の照明装置を設けなくてもよい。
4. 非常用の昇降機の乗降ロビーの天井及び壁の室内に面する部分は、仕上げを不燃材料でし、かつ、その下地を不燃材料で造らなければならない。

〔N o. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

1. 工事中の事務所で使用する工事用シートは、防災物品でなければならない。
2. 3階建て(高さ10m)の飲食店の1階客席で使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。
3. 15階建て(高さ45m)の共同住宅の5階の住戸で使用するじゅうたんは、防災物品でなければならない。
4. 2階建て(高さ9m)の有料老人ホームで使用するカーテンは、個人の持ち込みであれば、防災物品でなくてもよい。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で足りるものはどれか。

1. 中学校から老人デイサービスセンターに変更
2. 寄宿舍から旅館に変更
3. 幼稚園から保育所に変更
4. 事務所から美術館に変更

〔N o. 43〕 次の防火対象物のうち、消防法上、原則として、その規模(延べ面積、階数等)にかかわらずスプリンクラー設備を設置しなければならないものはどれか。ただし、危険物及び指定可燃物の貯蔵及び取り扱いはないものとする。

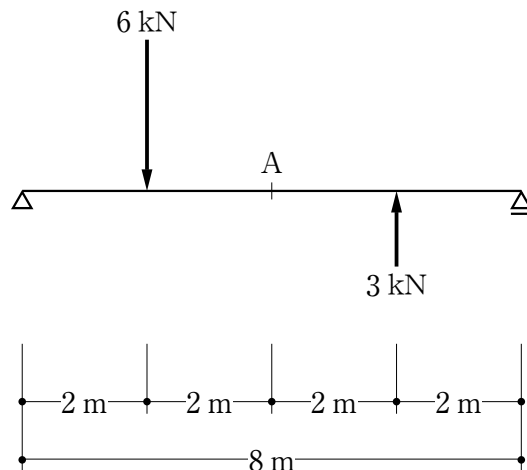
1. 特別養護老人ホーム
2. 遊技場
3. ホテル
4. 劇場

[N o. 44] 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」では、新たに建設された住宅で、まだ人の居住の用に供したことがないもの(建設工事の完了の日から起算して1年を経過したものを除く。)は、「新築住宅」である。
2. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」では、建築主等は、3階建て、延べ面積1,500 m<sup>2</sup>の旅館を新築しようとするときは、当該建築物を、建築物移動等円滑化基準に適合させなければならない。
3. 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」では、建築物の耐震改修をしようとする者は、建築物の耐震改修の計画を作成し、所管行政庁の認定を申請することができる。
4. 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」では、建築主は、特定建築物以外の建築物で床面積の合計が300 m<sup>2</sup>のものを新築する場合、当該行為に係る建築物のエネルギー消費性能の確保のための構造及び設備に関する計画を所管行政庁に届け出なければならない。

[N o. 45] 図のような荷重を受ける単純梁のA点における曲げモーメントの大きさとして、正しいものは、次のうちどれか。

1. 3 kN・m
2. 9 kN・m
3. 15 kN・m
4. 20 kN・m



[N o. 46] 木造2階建ての建築物の構造設計に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 風圧力は柱を介して水平構面に伝達されるので、柱の断面及びその仕口の設計においては、鉛直荷重だけでなく水平荷重も考慮しなくてはならない。
2. 厚さ1.5 cmで幅9 cmの木材の筋かいは、引張力にのみ抵抗するものとして使用する。
3. 軸組構法において、上下階の柱の位置が一致しない箇所では、上階の柱の軸方向力は直接、梁や桁に伝達されるので、その応力に対して、梁や桁のせいを大きくする等の計画とする必要がある。
4. 曲げ材は、一般に、材幅に比べて材せいが大きいほど、横座屈を生じにくい。



〔N o. 47〕 塗装工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. コンクリートの素地は、合成樹脂調合ペイント塗りとした。
2. 木質系素地面への塗装工事において、素地の含水率が15%であったので、塗装を行った。
3. 研磨紙ずりは、下層塗膜が硬化乾燥した後に行った。
4. 塗装場所の気温が4℃であったので、塗装作業は行わなかった。

〔N o. 48〕 コンクリート壁面へのモルタル塗りに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 上塗りには、下塗りに比べて富調合のモルタルを用いた。
2. モルタルの総塗り厚が25mmを超えるので、躯体にアンカーピンを打ち込み、ステンレスラスを張り、モルタルを塗り付けた。
3. ひび割れを生じさせないように、1回の塗り厚は7mm以下とした。
4. 下塗りのむら直し部分が比較的大きかったので、塗り付け後、荒らし目を付け、7日間以上放置した。

〔N o. 49〕 博物館の計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 展示物を鑑賞する際、1回の鑑賞の限界は壁面400m程度と想定し、展示空間の巡回動線上の適切な位置に小休憩や気分転換の場所を設けた。
2. 絵画の見やすさを考慮し、絵画の大きさ(対角線の長さ)の1.5倍離れた場所から鑑賞できる視距離となるように展示空間を計画した。
3. 展示空間の室内全般照明は、歩行・メモ書きに不便でない100lxとして、心理的快適感を与えるため低い色温度の光源を使用した。
4. 貴重な文化財を保存維持するため、収蔵庫は、室内気候のうち最も影響の大きい温度の調整に配慮した。

〔No. 50〕 集合住宅の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 街区型は、街区をひとまとまりに計画したもので、街路に沿って住棟を配置するので、街路に直接面する1階住戸にはプライバシー等の配慮が必要な形式である。
2. ツインコリドール型は、中廊下型の廊下側の環境に配慮したもので、片廊下型と中廊下型の間に位置づけられる形式である。
3. スキップフロア型は、2～3階ごとにエレベーターの停止階を設け、上下階には階段で連絡する階段室型と片廊下型とを組み合わせた形式である。
4. 階段室型は、開口面に廊下が接するため、プライバシー等の居住性は劣るが、エレベーターの設置効率が良く、車椅子利用者等へ適応しやすい形式である。



